

# 消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- ① 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- ② 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- ③ 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- ④ 調査期間 平成28年12月1日(木)～14日(水)

山形/モニター世帯数: 498世帯  
有効回答数: 471世帯(回答率: 94.6%)  
秋田/モニター世帯数: 370世帯  
有効回答数: 345世帯(回答率: 93.2%)

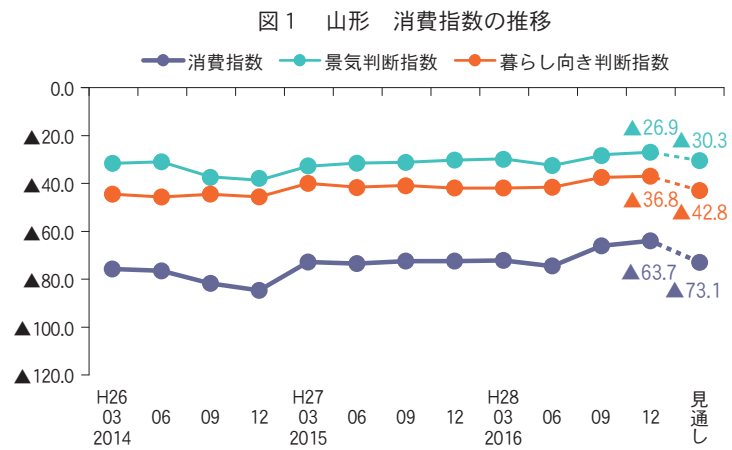
## 消費指数

### 第42回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは2期連続で改善ながら、先行きに強い不安感～

消費指数は▲63.7(前期比2.4ポイント上昇)と若干上昇し、2期連続で改善となった。内訳は景気判断指数が▲26.9(前期比1.6ポイント上昇)、暮らし向き判断指数が▲36.8(前期比0.8ポイント上昇)といずれの指数も若干改善した。

今後の見通しは、消費指数が▲73.1と大幅に悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲30.3、暮らし向き判断指数が▲42.8といずれも悪化が見込まれており、先行きへの不安感が大きくなっている。この背景には、最近の国際政治の激変などによる先行き見通しの不透明感があるものと思われる。

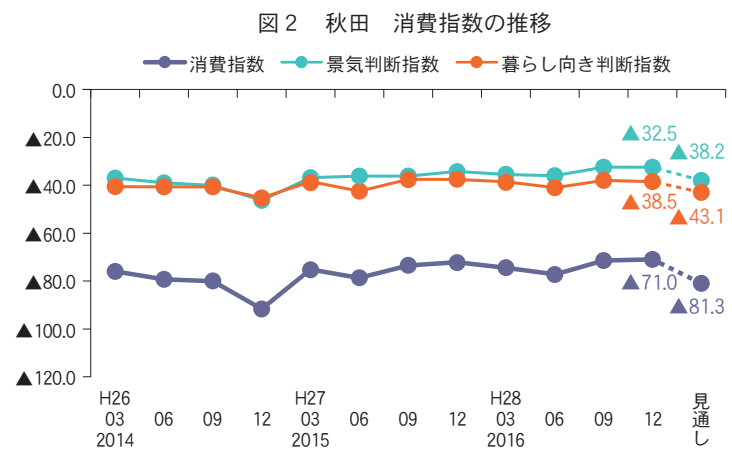


### 第22回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドはほぼ横ばいながら、先行きは大幅悪化の見通し～

消費指数は▲71.0(前期比0.5ポイント上昇)とほぼ横ばいであった。内訳をみると、景気判断指数が▲32.5(前期比1.0ポイント上昇)と2期連続で改善した一方、暮らし向き判断指数は▲38.5(前期比0.5ポイント低下)と2期ぶりに若干悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲81.3と大幅に悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲38.2、暮らし向き判断指数は▲43.1とともに悪化の見込み。背景として、国内外における政治や経済の先行き不透明な状況が影響したものと考えられる。



#### 【指数の見方】

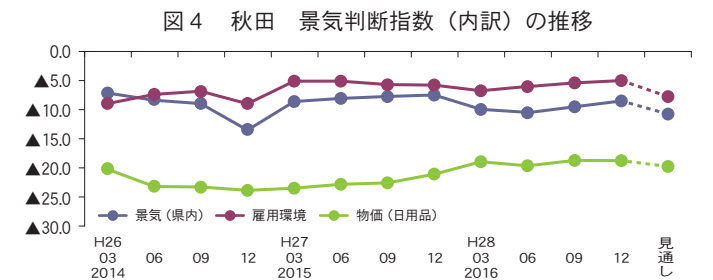
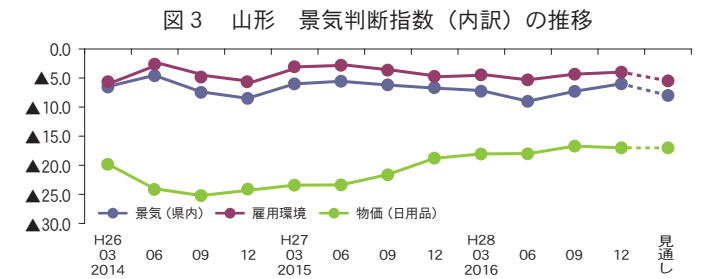
消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き判断指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

## 景気と暮らし向き

### 景気判断

山形の景気判断指数は▲26.9(前期比1.6ポイント上昇)と改善となった。景気判断指数を形成する3つの指数については、「景気(県内)」「雇用環境」が若干改善し、「物価(日用品)」はほぼ横ばいとなった。

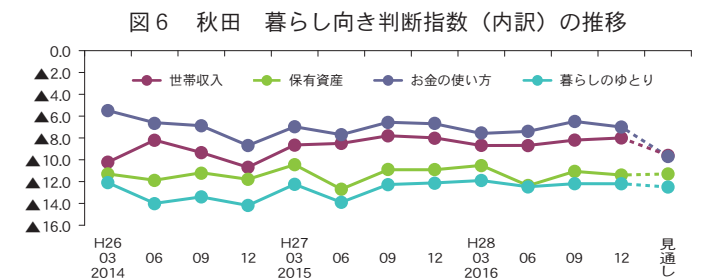
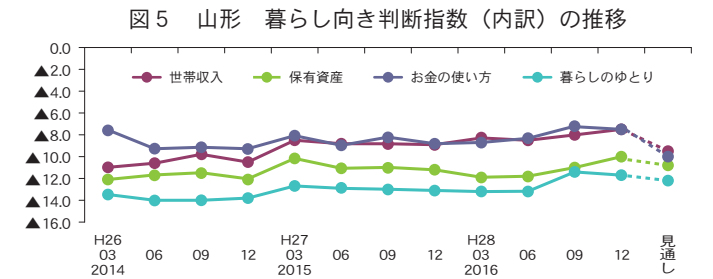
秋田の景気判断指数は▲32.5(前期比1.0ポイント上昇)と2期連続で改善した。指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」「雇用環境」がともに小幅な改善となり、「物価(日用品)」はほぼ横ばいとなった。



### 暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲36.8(前期比0.8ポイント上昇)と若干改善となった。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、いずれも若干の改善ないし若干の悪化の動きとなっている。

秋田の暮らし向き判断指数は▲38.5(前期比0.5ポイント下落)と小幅ながら2期ぶりに悪化した。指数を形成する個別指数は、「世帯収入」が若干改善した一方、「保有資産」「お金の使い方」がともに小幅ながら悪化した。また、「暮らしのゆとり」は横ばいとなった。



### 家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が453千円と前年同期比で30千円の増加となり、支出面では支出合計が417千円と前年同期比で8千円の増加となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は92.1%となり、前年同期に比べて4.7ポイントの低下となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が408千円と前年同期比で21千円の減少となり、支出面では支出合計が390千円と前年同期比で13千円の増加となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は95.6%となり、前年同期に比べて7.6ポイントの上昇となった。

